

幼稚園教育実習に関する幼稚園の意識 2

—佐賀県・大分県調査—

松尾 智 則 古賀 和 博 増 田 隆 永 淵 美香子
山 崎 篤 櫻 井 裕 介 山 下 雅佳実

Kindergarten Consciousness in Kindergarten Teaching Practice 2

Tomonori Matsuo Kazuhiro Koga Takashi Masuda Mikako Nagafuchi
Atsushi Yamasaki Yusuke Sakurai Masami Yamashita

(2019年11月27日受理)

はじめに

本稿は、先に報告した「幼稚園教育実習に関する幼稚園の意識」^(注1)とフェースシート部分以外はほぼ同様の調査を佐賀県及び大分県で行った第2次調査の結果を報告するものである。従って「幼稚園教育実習に関する意識調査1993-2016」^(注2)及び2017年度前学期の学生を対象とした幼稚園教育実習に関する意識調査等の結果の一部を提示して、その内容に対する実習園側の実態や認識・意見を聴取する形式で幼稚園教育実習に関する佐賀県と大分県の幼稚園、幼稚園型認定こども園、幼保連携型認定こども園（以下、幼稚園等とする。）側の意識を明らかにすることを目的としている。同時に本学科学学生の取り組みの結果を通じて多様な幼稚園等での実習（実習の名称は幼稚園教育実習に統一する。）の実態と変化の動向についての情報を、幼稚園等側に提供することを意図していることも同様である。そのため、本文中の学生アンケート結果は「幼稚園教育実習に関する幼稚園の意識」に記載した内容の再掲である。更に、前稿「幼稚園教育実習に関する幼稚園の意識」は調査対象とした全園に郵送しており、本稿も完成次第、佐賀県・大分県の調査対象の全園に郵送することを予定している。本稿の配布により、幼稚園等との情報の共有を共通化することを意図しているため、前稿との重複する部分も含んでいる。

1. 調査対象及び方法

佐賀県及び大分県内の全ての幼稚園等の計381園（佐

賀県119園、大分県262園）を対象として平成31年1月に質問紙を郵送した。しかし、リストの不備で既に閉園になっていた園が大分県で15園あり、質問紙が返送されてきたため、実質的には366園（佐賀県119園、大分県247園）を対象とすることになった。

回収数は平成31年3月までに186件であったが、フェースシート未記入が2件あったのでこれを除外した184件（佐賀県57件、大分県127件）で回収率は50.3%（佐賀県47.8%、大分県（51.4%））であった。調査実施に先立ち、佐賀県私立幼稚園・認定こども園連合会会長、大分県私立幼稚園連合会会長、大分県国公立幼稚園会会長を訪問、調査の趣旨を説明して協力依頼を行った結果、調査依頼の鑑文の中に「佐賀県私立幼稚園・認定こども園連合会」並びに「大分県私立幼稚園連合会」の御協力を得ています。」の一文を入れることができた。これによって両県の回収率を若干でもあげることができたのではないかと考えている。改めて感謝申し上げます。

回答形式は選択肢形式と自由記述形式を併用している。また、アンケートの構成に合わせて、フェースシート部分は最後にあげている。

2. 調査内容と考察

質問項目は枝質問を加えて計27問となっている（但し、フェースシート項目5問を含む）。以下、質問紙順に結果を明らかにする。なお、資料として提示した学生アンケートの結果の詳細は注に基づき前掲の「幼稚園教育実習に関する意識調査1993-2016」の該当部分を参

照されたい。

また、アンケート用紙の内容は論文末に掲載している。

(1) 幼稚園教育実習の実習内諾依頼について

実習園確保の観点から、実習先の内諾確保の時期が次第に早まることに対して、学生達は「もっと遅いほうが良い」(55.5%) (論文末アンケート表2参照) と否定的な意見が多く見られる。しかし、幼稚園等側の意見(表1)を見ると「今のままで良い」が前学期は佐賀が87.7%、大分県が81.9% (参考福岡78.6%)、後学期は佐賀県が77.2%、大分県が78.8% (参考福岡79.6%) で福岡と同様のほぼ8割に上っており、園側の受け入れ環境を考えると依頼時期を変更するよりも、福岡県と同

様に学生の指導を充実するほうが現実的であると思われる。また、自由記述は佐賀県が8件、大分県が11件(参考福岡37件)あり、内容は、「わざわざお越し頂かなくても電話やメールでよい」のように電話や訪問の手順やマナーに関する要望が中心であったが、大分県では、「職員の異動等により前年度に内諾しても受けられない可能性があるため」など早期の依頼に対する問題点の提起が4件あった。実際に2019年度の実習において、内諾後の2月に次年度休園が決定したとの連絡を受け、実習先を急遽変更したという事案が大分県で発生している。

(2) 事前事後指導等について

2016年の学生アンケートから見ると、事前事後

表1. 幼稚園教育実習依頼時期

	前学期						後学期					
	佐賀		大分		(参考)福岡		佐賀		大分		(参考)福岡	
	実数	構成比%	実数	構成比%	実数	構成比%	実数	構成比%	実数	構成比%	実数	構成比%
もう少し早い方が良い	-	-	3	2.4	11	5.3	6	10.5	2	1.6	16	7.8
今のままで良い	50	87.7	104	81.9	162	78.6	44	77.2	100	78.7	164	79.6
もう少し遅い方が良い	5	8.8	15	11.8	26	12.6	4	7.0	18	14.2	19	9.2
わからない	2	3.5	5	3.9	6	2.9	2	3.5	7	5.5	6	2.9
無回答	-	-	-	-	1	0.5	1	1.8	-	-	1	0.5

設問 Q1-1. 前学期幼稚園教育実習(5月末から6月)内諾依頼の時期(10月末から12月)は

設問 Q1-2. 後学期幼稚園教育実習(10月)内諾依頼の時期(1月から3月)は

表2. 事前事後指導内容の重要度

	非常に重要			重要			あまり重要ではない			重要ではない			ウエイト		
	佐賀	大分	(参考)福岡	佐賀	大分	(参考)福岡	佐賀	大分	(参考)福岡	佐賀	大分	(参考)福岡	佐賀	大分	(参考)福岡
	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数
保育者としての心構え・役割に関する知識	38	78	122	19	44	83	0	5	1	0	0	0	3.67	3.57	3.59
実習生としての心構え・役割に関する知識	40	91	131	17	32	74	0	4	1	0	0	0	3.70	3.69	3.63
社会人としての心構えと行動に関する知識	32	73	102	24	46	101	1	8	3	0	0	0	3.54	3.51	3.48
指導案の書き方	15	38	59	37	80	127	4	9	20	1	0	0	3.16	3.23	3.19
日誌の書き方	13	33	58	38	83	124	5	11	24	1	0	0	3.11	3.17	3.17
幼児指導の具体的留意点	21	37	64	32	79	124	3	11	18	1	0	0	3.28	3.20	3.22
実習の流れについての見通し	11	19	39	35	84	129	10	24	38	0	0	0	3.02	2.96	3.00
事前準備についての知識	12	24	47	38	77	124	7	25	35	0	0	0	3.09	2.99	3.06
友達の報告(情報の共有)	5	6	10	21	55	67	27	60	111	3	5	16	2.50	2.49	2.35
先輩の作品集(先輩との情報共有)	4	7	11	21	52	66	28	59	113	3	6	15	2.46	2.48	2.34
先輩の実習記録(モデル理解)	6	14	10	23	51	84	25	56	101	2	5	10	2.59	2.59	2.46
手遊びのビデオとプリント(保育実技体験)	9	20	23	34	80	109	11	24	1	2	1	53	2.89	2.95	2.31

設問 Q2-1. 事前事後指導内容に関してどのような項目が重要と思われるか貴園のお考えは如何でしょうか。番号をお選びください。
注) ウェイトとは「非常に重要」を4点、「重要」を3点、「あまり重要ではない」を2点、「重要でない」を1点として全回答者(無回答者を除く)の平均値

指導で役に立ったものは、上から「先輩の作品集」(84.7%)、「先輩の実習記録」(64.7%)、「指導案の書き方」(56.0%)、「日誌の書き方」(53.1%)、「実習生としての心構え、役割に関する知識」(47.8%)となっているが(論文末アンケート表4参照)^(注3)、表2^(注4)に回答とウェイト付けをした結果で示しているように幼稚園等側の考えとしては「心構え・役割に関する知識」が3項目とも佐賀県・大分県共に、ウェイトのポイントが3.5を超えて上位3位までを占めている。(再集計した福岡の結果もほぼ同様の数値となっている。)次いで、ウェイトのポイントが3.2~3.0程度の群として「指導案の書き方」、「日誌の書き方」、「幼児指導の具体的留意点」、「実習の流れについての見通し」、「事前準備についての知識」が挙げられている。一方指導案作成や日誌作成のベースとなる、「先輩の作品集(情報共有)」や「先輩の実習記録(モデル理解)」のウェイトのポイントは2.5~2.4程度で評価が低い反面で、「手遊びのビデオとプリント(保育実技体験)」はウェイトのポイントが、2.9前後で福岡の2.5より明らかに高くなっている。このように学生は具体的事例と方法に興味集中している一方で、福岡県同様に佐賀県大分県においても幼稚園等側は「心構え・役割の知識」に焦点が当てられており、このズレを調整していくことが、より効果的な事前事後指導と幼稚園教育実習の実施に繋がっていくと考えられることは、ほぼ福岡と同様であると考えられる。

自由記述は佐賀県16件、大分県26件で、記入率は福岡の約3分の1を下回っていた。最も多いのは「社会性や行動」関係の14件(佐賀県4件、大分県10件)で、次いで、「意欲・積極性」関係の8件(佐賀県3件、大分県5件)、「日誌・指導案」関係の大分県6件などが挙げられており、前述の結果を裏付けていると思われる。福岡で見られなかったものとして佐賀県で「インスタ、ツイッター等に実習中の気持ち、写真等安易にアップする人がいるのでやめて欲しい」等のSNS等に関する言及が2件見られた。

(3) 幼稚園教育実習への適応状況について

学生アンケートでは、幼稚園教育実習への適応状況を「実習の好感度」と「実習中の健康状態」を指標として探ったが、好感度は「楽しかった」と「少しは楽しかった」の合計で80%台を保っており、且つ後学期の方が「楽しかった」の比率が10ポイント程度高くなっており、安定していた(論文末アンケート表5参照)^(注5)また、健康状態に関しても「毎日健康に過ごした」と「体調を壊したが休まなかった」の合計で概ね90%台後半を維持しており、特に問題の無いことを先の論文で明らかにしたところである(論文末アンケート表6参

照)^(注6)

この情報を見ての幼稚園等側の自由記述は57件(佐賀県26件、大分県31件)であった。「実習中に体調を壊す方が以前より増えたようです」など健康の重要性や心配、配慮に関する記述が最多で23件(佐賀県10件、大分県13件)に及んでいた。次いで、「たのしい気持ちが強いのに安心しました。仕事の意欲につながります」など「楽しかった」を肯定的に受け止める意見が13件(佐賀県8件、大分県5件)見られた。また、楽しさの定義や充実感との絡みを指摘する意見が4件見られた。「楽しかった」、「毎日健康に過ごした」が16年前に比べパーセントが高くなっていることに驚いた。(半日保育や全日保育が減少し、実習生の負担が軽くなったからと思われるが)など近年の学生の積極性の低下の認識から「楽しい」と「らく」の連動を危惧したと思われる意見も福岡と同様にみられた。

(4) 実習体験内容1(全体)

先の報告で幼稚園教育実習中の指導体験として「全日保育」や「半日保育」が激減し、「朝の会や帰りの会の指導」や「給食指導」も減少し、「主活動」は若干増加し、「絵本読みや指あそびなどの一部の指導」が高水準(概ね80%台)を維持しているとの指摘をし、幼稚園教育実習の断片化が問題ではないかと論じたところである(論文末アンケート表7参照)^(注7)

この実態を踏まえての幼稚園等側の認識を問うた結果が表3である^(注8)。どの指導実習項目に関しても概ね、ウェイトが、前学期より後学期が高くなっている事は、2回の幼稚園教育実習を見学実習と責任実習の概念で大きく把握していることの現れであると思われる。具体的な指導実習項目手してウェイトが高いのは、「絵本読みや指遊びなど一部の指導」(前学期佐賀県3.24・大分県3.29、後学期佐賀県3.17・大分県3.33)、「主活動の部分だけの指導(設定保育)」(前学期佐賀県3.05・大分県3.09、後学期佐賀県3.19・大分県3.39)が上位を占めており、福岡と同様に学生の指導実習実態と連動していることが窺える。「全日保育」のウェイトが前学期佐賀県2.96・大分県2.48、後学期佐賀県3.22・大分県2.72で「半日保育」のウェイトは前学期佐賀県2.96・大分県2.46、後学期佐賀県3.19・大分県2.77であるにもかかわらず、その意識以上に実施実態が低下している原因について自由記述を求めると109件(佐賀県41件、大分県68件)の回答があり、とても関心が高い項目の一つであった。原因について整理すると、「園の多忙化」48件(佐賀県15件、大分県33件)、「学生の力不足」21件(佐賀県12件、大分県9件)、「学生の意欲不足」12件(佐賀県4件、大分県8件)、「園児への配慮」7件の

表3. 実習体験内容の重要度

	前学期														
	非常に重要			重要			あまり重要ではない			重要ではない			ウエイト		
	佐賀	大分	(参考)福岡	佐賀	大分	(参考)福岡	佐賀	大分	(参考)福岡	佐賀	大分	(参考)福岡	佐賀	大分	(参考)福岡
	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数
全日保育	18	19	51	21	33	79	16	62	62	2	11	14	2.96	2.48	2.81
半日保育	16	13	49	26	42	87	12	59	60	3	11	10	2.96	2.46	2.85
朝の会や帰りの会	9	12	40	26	61	115	20	47	45	2	5	5	2.74	2.64	2.93
主活動の部分だけの指導(設定保育)	18	42	72	26	57	95	11	21	34	2	5	5	3.05	3.09	3.14
給食だけの指導	7	16	18	28	67	75	19	37	92	2	4	21	2.71	2.77	2.44
絵本読みや指遊びなど一部の指導	18	44	70	32	72	108	5	8	27	0	0	1	3.24	3.29	3.20
	後学期														
	非常に重要			重要			あまり重要ではない			重要ではない			ウエイト		
	佐賀	大分	(参考)福岡	佐賀	大分	(参考)福岡	佐賀	大分	(参考)福岡	佐賀	大分	(参考)福岡	佐賀	大分	(参考)福岡
	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数	実数
全日保育	24	31	83	19	39	66	10	46	45	1	7	12	3.22	2.72	3.07
半日保育	20	27	74	26	47	84	6	43	37	2	6	11	3.19	2.77	3.07
朝の会や帰りの会	10	22	50	27	66	108	15	32	42	2	4	5	2.83	2.85	2.99
主活動の部分だけの指導(設定保育)	19	65	88	27	45	84	7	11	29	1	3	5	3.19	3.39	3.24
給食だけの指導	7	23	29	33	74	70	12	22	87	0	0	20	2.90	3.01	2.52
絵本読みや指遊びなど一部の指導	17	48	78	30	66	97	6	8	28	1	0	3	3.17	3.33	3.21

設問 Q4. 実習体験内容に関してどのような項目が重要と思われるか貴園のお考えはいかがでしょうか。

注) ウェイトとは「非常に重要」を4点、「重要」を3点、「あまり重要ではない」を2点、「重要でない」を1点として全回答者(無回答者を除く)の平均値

他、「幼稚園教育実習の制度的な困難」(幼稚園教育実習期間の短さ等)や「他の指導内容の方が良い」などが挙げられていた。必要性を感じないと言うよりも幼稚園等や園児の環境変化、学生の能力と意欲の低下を感じて減少している実態が窺えるが、学生の問題より幼稚園等側の事情を理由とする方が多いことは、学生指導の改善だけでは問題の解決に繋がらないことは福岡と同様であると考えられる。

一方、「その他の実習体験に関する意見」56件(佐賀県23件、大分県33件)の中には、「教員免許状の取得要件として全日、半日保育は必須とすべき」、「現場で就職したら1人で担任して全日保育の場面もあると思うので、実習の段階で全日指導を経験することは本人の為になるのではないか」、など全体や就職を見越しての全日、半日保育の重要性を指摘する意見も福岡県同様に見られた。

(5) 実習体験内容2(勉強になったこと)

学生アンケートによると、幼稚園教育実習中の各種体験への学生の評価では、「園長・主任の先生などのお話」「指導担当の先生のお話」「先生の保育をする姿を見たこと」「子ども達と長期間一緒にいたこと」「保護者の

様子を見たこと」など間接的な学びについては評価が一時期は上がっているが、近年は低下傾向にある。一方で、体験型の「環境構成などの製作を体験したこと」「清掃などの作業を体験したこと」「設定保育をしたこと」などは評価が安定している(論文末アンケート表8参照)。(注9)

さらに2016年から選択肢の「設定保育」を細分化して見た場合に、「絵本読みや指遊びなどの一部の指導をしたこと」(72.2%)や「主活動の部分だけの指導をしたこと」(63.6%)などが大きく「全日保育」(35.4%)や「半日保育」(32.5%)を上回っている。(注10)しかし、幼稚園等アンケートのために更に分析した結果、体験した中で評価が高いのは、「全日保育」や「半日保育」であるとの分析結果を追加した。(論文末アンケート表8参照)

これに対する幼稚園等側の自由記述は72件(佐賀県33件、大分県39件)であった。内容は多岐に亘っているが、「全日・半日保育は大切、増やしたい」との意見が14件ある一方、「実習生の積極性の低下」に言及するものが5件、「園児とのふれあいを大切に」4件、「観察の重要性」3件などが意見の広がりがあった。

(6) 実習訪問について

学生アンケートによると、実習訪問への学生の要望は概ね年を追って上昇している。(論文末アンケート表9参照)^(注11) これに対する幼稚園等側の自由回答は68件(佐賀県29件、大分県39件)あった。幼稚園等側の認識としては「学生のサポート」としての実習園訪問が26件(佐賀県12件、大分県14件)と「幼稚園等と大学の情報交換の場」としての位置づけが15件(佐賀県4件、大分県11件)で多い。次いで「訪問者のあり方への要望」(8件)や「就職との関係」(3件)が挙げられている点も福岡県と同様であった。

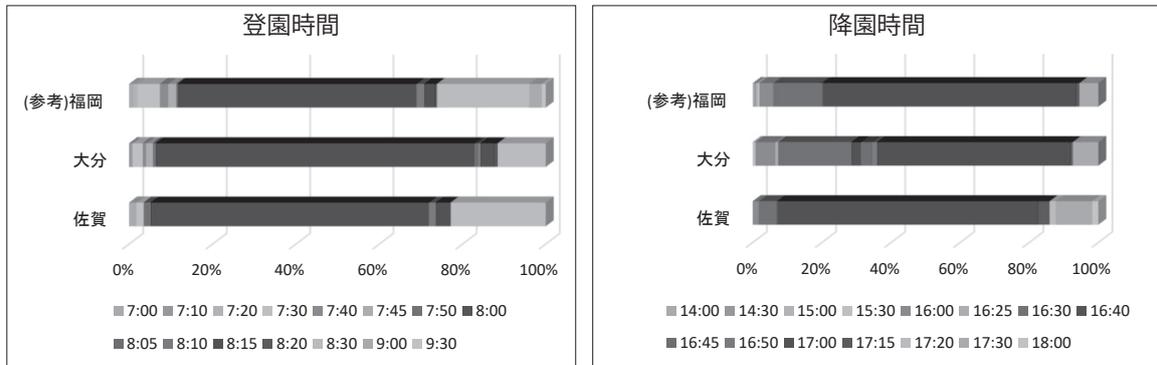
(7) 実習中の登降園時間について

学生アンケートによると、実習生の登園時間については、実習園の指定は午前7時から午前8時40分の間の時間が指定されており、最も多いのは午前8時の52.2%、次いで、午前8時30分の12.3%、午前7時30分の7.9%となっており、ほぼ1時間の幅があった。一方、降園時間は、午後3時から午後7時15分の間の時間が指定されており、最も多いのは午後5時の62.1%、次いで、午後4時30分の15.8%、午後5時30分の6.9%となっており、4時間15分の幅があり、幼稚園教育実習学生の降園後の作業等の時間的ゆとりにも影響して

いることが考えられる(論文末アンケート表10、11参照)。^(注12) これに対して、実習園が考えている登降園時間は表4のとおりであった。登園時間に関しては、午前7時から8時30分の間の時間が指定されており、福岡よりも幅が狭かった。最も多いのは午前8時の佐賀県66.7%、大分県76.2%、次いで午前8時30分の佐賀県22.8%、大分県11.5%となっており、福岡よりもこの時間帯への集中度が高い。降園時間に関しては、午後3時30分から午後6時の間の時間が指定されており、最も多いのが午後5時の佐賀県75.5%、大分県55.7%であった。学生アンケートの対象園と幼稚園等アンケートの対象園は同一でない為、学生が指示を受けた登降園時間と園が望ましいと考える登降園時間にズレが生じることは福岡同様に佐賀県や大分県でも想定していたことであるが、登園時間に関しては登園時間が後ろにずれている園が若干ある以外はほぼ同等の傾向と見て取れる。降園時間に関しては、ピークは学生アンケートの回答と幼稚園等アンケートの回答はほぼ同等であるが、福岡県同様に学生の認識として当初指定された時間と実習中に実態に応じて日ごとに指示された時間の混同があり、時間の幅か広がっているのではないかと考えられる。

登降園に関する幼稚園等側の自由記述は61件(佐賀県18件、大分県43件)であった。「実習園の勤務時間

表4. 望ましい登園時間と降園時間



		7:00	7:10	7:20	7:30	7:40	7:45	7:50	8:00	8:05	8:10	8:15	8:20	8:30	9:00	9:30	無回答
登園	時間帯	7:00	7:10	7:20	7:30	7:40	7:45	7:50	8:00	8:05	8:10	8:15	8:20	8:30	9:00	9:30	無回答
	佐賀	1	0	0	1	0	0	1	38	0	1	2	0	13	0	0	0
	構成比%	1.75	0	0	1.75	0	0	1.75	66.7	0	1.75	3.51	0	22.8	0	0	
	大分	0	1	0	3	1	2	1	93	1	1	4	1	14	0	0	5
	構成比%	0	0.82	0	2.46	0.82	1.64	0.82	76.2	0.82	0.82	3.28	0.82	11.5	0	0	
(参考)福岡		2	0	2	11	4	4	1	116	0	4	5	1	45	6	2	3
構成比%		0.99	0	0.99	5.42	1.97	1.97	0.49	57.1	0	1.97	2.46	0.49	22.2	2.96	0.99	
		14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:25	16:30	16:40	16:45	16:50	17:00	17:15	17:20	17:30	18:00	無回答
降園	時間帯	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:25	16:30	16:40	16:45	16:50	17:00	17:15	17:20	17:30	18:00	無回答
	佐賀	0	0	0	0	1	0	3	0	0	0	43	2	1	6	1	0
	構成比%	0	0	0	0	1.75	0	5.26	0	0	0	75.4	3.51	1.75	10.5	1.75	
	大分	0	0	0	1	7	1	26	3	4	2	68	1	0	9	0	5
	構成比%	0	0	0	0.82	5.74	0.82	21.3	2.46	3.28	1.64	55.7	0.82	0	7.38	0	
(参考)福岡		1	1	1	1	8	0	28	0	1	0	148	2	0	11	0	4
構成比%		0.5	0.5	0.5	0.5	4.0	0.0	13.9	0.0	0.5	0.0	73.3	1.0	0.0	5.4	0.0	

※構成比は無回答を除く
設問 Q7基本的登園時間と降園時間は何時頃が望ましいとお考えでしょうか。

と同様で良い」など職員と同様の勤務時間を考えているという内容が24件（佐賀県4件、大分県20件）、「早番・遅番体験」11件（佐賀県4件、大分県7件）や「園児の登降園を見られる時間」5件などであった。一部、「大学の方針に従いたい」という意見も見られたが、基本的には職員の勤務条件・状況を対応している様子が窺えた。その他、時間とは関係ないが、登降園関連として安全に関する配慮も見られた。

この様に、実習生の位置づけもあり、幼稚園等の一日のスケジュールや行事の準備等の関係で実習学生の登降園の時間の変動があることは避けえないが、高等教育における教育実習という観点からは実習時間数の管理やその後の活動時間の確保からある程度の標準化を考えていく事も福岡同様に今後の課題であると思われる。

(8) 実習中の睡眠について

実習中の平均睡眠時間は5時間未満が46.3%、5～6時間が36.0%の合計で6時間以下が82.3%であった（論文末アンケート表12、13参照）。^(注13)

これに対する幼稚園等側の自由記述は101件（佐賀県39件、大分県62件）であった。「自分も同様でした」など睡眠不足を普通のことと捉える内容が16件（佐賀県10件、大分県6件）であったが、福岡の回答で見られなかったものとして「家でしなくてはいけない日誌など、休憩時間に書いていただいたりしています」など実習時間内の活動内容の見直しをしている例も24件（佐賀県9件、大分県15件）も見られるほか、日誌の簡素化・効率化を求めるものが15件（佐賀県4件、大分県11件）、パソコン利用による効率化や事前指導の改善を求めるものが各3件あるなどしている。また、学生の健康を気遣う内容が8件、その他、職種全体の課題ととらえている回答や就職への悪影響を危惧する回答も見られた。又、個人差や事前の準備不足、個人的理由の可能性や自己責任に触れている意見も少数であるが見られた。福岡では睡眠不足をあたり前のことととらえる意見が最大であったが、佐賀県・大分県においては、日誌の簡略化に加えて園内での日誌作成に踏み込んでいる実態や意向があることが確認できた。

(9) 園務・作業等の内容について

学生アンケートによると、学生が体験した園務、作業は、「配属保育室清掃」が86.2%、「トイレ清掃」が76.4%、「園庭整備」が64.5%、「配属外保育室清掃」が58.6%の順となっており、それ以外の内容は30%以下となっていた（論文末アンケート表14参照）。^(注14)

是非必要な園務や作業体験に関する幼稚園等側の自由記述は147件（佐賀県43件、大分県104件）と非常に多

くの回答があった。「清掃（全般）」が55件（佐賀県18件、大分県37件）で最も多く、次いで「保育室清掃」が54件（佐賀県15件、大分県39件）（配属外保育室と明記したものがその他に7件）、「園庭清掃・整備」が39件（佐賀県27件、大分県12件）、「トイレ清掃」が40件（佐賀県11件、大分県29件）、門・道路清掃が11件で上位は清掃・整備関係が占めていた。続いて、「壁面製作」が32件（佐賀県7件、大分県25件）（他に、「環境構成」が18件、「他の装飾製作」が10件）であった。後は「保育準備」10件、「行事準備」4件などがあり、ここまでが園児とあまり接触しない内容となっている。さらに、「預かり保育」9件、「バス添乗」7件、「徒歩降園引率」8件、「園外保育引率」が12件等となっていた。

大学での事前指導においても清掃の大切さに言及し、限られた範囲ではあるが、具体的に指導しているところであるが、福岡同様に佐賀県・大分県においても幼稚園等側の重視姿勢は強いものであった。

その他の「アンケート表14を見ての自由意見」としては35件（佐賀県17件、大分県18件）が挙がっていた。「実際に働き始めると子どもと関わるだけの仕事ではないので様々な作業をすることは大切だと思う」や「少しでも多くの仕事を体験してもらいたい」など多様な体験の大切さに言及するものが最も多く8件であった。次いで「幼稚園での清掃、園庭整備等の必要性をしっかりと理解して実習に臨む事で立派な学びになると思う」など清掃の重要性や必要性に言及しているものが6件で、この両項目の順番が福岡と逆転していた。また、「一生懸命さ」や「忍耐力」に言及しているものもあった。また、一方で「園での園務・作業は実習に必要なのか?」、「なるべく子どもたちとの触れ合いをたくさんしてもらいたいのでトイレ清掃や園庭の清掃などはさせていません」や「子どもとの関わり観察すること、保育者の動きをしっかりと観察することが一番大切」などしている意見もあった。また、「学生のみが清掃するのではなく、職員が清掃する姿を見習って学生が主体的に体験していくことが大切と考えます」や「必要かどうかという事ではなく、園運営の中で行われている業務がどんなものであるのか園でどのように行われているのかを学ぶ（知る）ことは必要で、だからといって実習生にさせる（特に清掃や壁面など）のではなく、普段どおり、職員が行う中に実習生が入り、一緒にやっていくことが職員とのコミュニケーションも取れ、会話の中でお互いに学ぶものが多くあってよいと思っています」などプロセス、実施形態に注目している意見もあった。また、多様な経験が重視されている一方で「園児降園後、清掃、一日の振り返りの話し合いで時間的にいっぱいでもその他の

ことは時間がとれていません」などの実情も表明されている。

(10) 園から受けた指導内容

学生アンケートによると、「クラス担任による反省会」が最多で、85.7%、次いで、「日誌の添削」が82.3%、「指導案の添削」が73.9%となっている。指導実習を行っていないため指導案の添削の必要がない幼稚園等もあるので、「日誌の添削」と「指導案の添削」の実施率の差は実際にはもう少し小さいと思われる（論文末アンケート表15参照）。

幼稚園等側が是非必要と考える指導内容についての自由記述は148件（佐賀県45件、大分県103件）であった。

「クラス担任による反省会・指導」が91件（佐賀県33件、大分県58件）で最多であった（他に範囲を特定していない反省会が8件）。次いで、「指導案の添削」が67件（佐賀県21件、大分県46件）、「実習日誌の添削」が66件（佐賀県21件、大分県45件）で上位であることは福岡と同様であった。しかし、「複数の職員が参加した反省会」が46件（佐賀県15件、大分県31件）、「園長・主任からの話」が23件（佐賀県9件、大分県14件）に上っており、福岡ほどの著しい差ではなかった。

このように実習生の指導は福岡同様に佐賀県大分県でもクラス担任がその中心を担っているが、園長・主任によるサポートや園全体でのサポートが福岡と比べると多いように感じられる。一方で、「担当も未熟である場合も多いので、多くの職員が参加して反省会ではなく、意見交換会としています。学生から見た園への意見も出ると活性化します。（現実には出来てませんが）」など指導体制の弱さを逆に活用したいという意見もある。それにしても、学生指導の主体をクラス担任に大きく依存する指導体制は、幼稚園と学生の双方に負担が大きくなることが福岡同様に佐賀県・大分県でも危惧される。

(11) 実習日誌の返却について

学生アンケートによると、「すぐに返却された」が41.4%、「数日後に返却された」が45.8%で数日以内に返却される例が大半であるが、「最後にまとめて返却された」が4.4%、「その他」が3.4%あり、合わせると8%近くになり、例外的とはいえ数になっているのではないかと考えられる（論文末アンケート表16参照）。

日誌の返却の形式についての自由記述は152件（佐賀県43件、大分県109件）あったが、日々の返却と最終的な返却の二つの解釈が混在していたので、明らかに日々の返却について言及しているものに限ると139件

（佐賀県37件、大分県102件）であった。内容は実態と願望が混ざった回答ではあるが、「その日のうち」が11件、「すぐ」が19件、「翌日・次の日」が45件（佐賀県10件、大分県35件）で回答の約54%が早期の返却の実施や必要性を感じていたが、福岡の64%を下回っている。次いで、数日後が36件（佐賀県10件、大分県26件）で、業務等のために早期の返却が難しいことに言及していたものが多く見られた。また、担任だけの閲覧・添削だけではなく主任・園長の閲覧を行っているため時間がかかることに言及している回答も複数見られた。一方で、「1週間後」が2件で、あまり期間にこだわっていない回答も見られた。

日誌添削後の指導については表5の通りである。福岡同様に佐賀県・大分県においても、「添削に基づく削除（消去）・修正を求める」が70%台であったが若干上昇している。「特に指導しない」が20%程度存在するが、それに関連した自由記述として「次の日の日誌で改善されていればよいと思う」というものがあり、実習生の負担軽減を図っているのではないかと考えられる。

日誌指導についての幼稚園等側の自由記述は69件（佐賀県23件、大分県46件）であった。福岡と比べると回答内容が分散していた。その中で一番多いのは、「大学での指導要望・大学の方針」の11件（佐賀県1件、大分県10件）、ついで、担任・実習生の負担軽減関連が「書式改善で負担減」6件、「ICT化」2件、「添削なし」1件、「お礼などの前置き不要」1件などがあった。「誤字脱字の指導」5件、「文章が少ない・文章力の指摘」3件など従来の指摘もあったが「添削よりコメント・アドバイス重視」4件など新しい動きも見られる。その一方で「日誌の添削をし、書き換えるよう（言葉、誤字等）指導しても従わない人もいたり、書き方の指導が通じずに、どう添削してよいかわからない人などもいた」「指導にあった通りに記入して欲しい」など指導の実際場面に園側の悩みが窺える所は大学側の事前指

表5. 日誌添削後の指導

		実数	構成比%
添削に基づく削除（消去）・修正を求める	佐賀	43	75.4
	大分	93	73.2
	(参考) 福岡	147	71.4
特に指導しない	佐賀	13	22.8
	大分	28	22.0
	(参考) 福岡	43	20.9
無回答	佐賀	1	1.8
	大分	6	4.7
	(参考) 福岡	15	7.3

設問 Q11-2日誌添削後指導の指導についてどのようにお考えでしょうか。一つお選びください。

導の問題点として改善に取り組む必要があると思われる。

実習日誌の閲覧・添削指導は、学生の学習内容の確認のほかに保育者としての文書作成能力の指導まで含まれるために負担の多い業務である中、クラス担任や園長・主任に過大な御配慮をいただいているのが現状であろうと思われる。養成校と実習園で日誌指導の効率化の模索をしなくてはならないところであろうことは福岡県同様に感じられた。

(12) フェースシート

アンケート回答幼稚園等の属性は以下の通りである。

①幼稚園（こども園）の所在地と設置者

今回の調査は佐賀県・大分県県内の全ての幼稚園、幼稚園型認定こども園、幼保連携型認定こども園を対象としたが、福岡においては国公立・私立の区分しなかつたが福岡県外で認定こども園の拡大や社会福祉法人の増加が著しかったため、これを反映して項目を改めた。回答の構成は表6のように、佐賀県57園（31.0%）、大分県127園（69.0%）であった。特徴としては佐賀県において社会福祉法人による幼稚園等の設置が進行している事と、大分県においては小学校併設の公立幼稚園が多いこと（しかし、近年都市部外において休園が相次いでいる。）やそれに反比例して社会福祉法人立の認定こども園が増加している結果が表からも見て取れる。

表6. 貴幼稚園（こども園）の所在地と設置者区分

	公立	学校法人立	社会福祉法人立	その他
佐賀	5	41	11	-
大分	51	33	40	3

表7. 貴幼稚園（こども園）の所在地と施設区分

	幼稚園	幼稚園型認定こども園	幼保連携型認定こども園
佐賀	20	8	29
大分	68	16	43

②施設区分

施設区分ごとの結果は表7の通りで佐賀県では65.0%が認定こども園で、大分県では大量の公立幼稚園を抱えているにも拘らず46.5%が認定こども園となっている。

③最近5年間における本学科の実習生の有無

今回のアンケートは一般論としての幼稚園等の幼稚園教育実習に対する意識の実態を調査するものであったが、使用した学生アンケートが本学学生の実習実績であるために特にこの項目を設けた。結果は表7の通り

で、「引き受けたことがある」が佐賀県64.9%、大分県49.6%であった。本園との縁が薄い「引き受けたことが無い」また「不明」の園からも84件に上る回答を頂いて感謝するところである。

また、本学科の実習生に対する評価についての自由記述は69件（佐賀県23件、大分県46件）であった。実習生等に対する高評価を頂いたものが38件、大学の取り組みに高評価を頂いたものが8件で大変ありがたい結果であったが、学生への要望（3件）や個別の学生の問題の指摘（1件）などもあり、今後更なる指導の充実に努めなければならないと考える。

表8. 最近5年間の間に本学科の実習生を引き受けたことがあるか

		実数	構成比%
引き受けたことがある	佐賀	37	64.9
	大分	63	49.6
	(参考)福岡	155	75.2
引き受けたことはない	佐賀	14	24.6
	大分	44	34.6
	(参考)福岡	42	20.4
不明・無回答	佐賀	6	10.5
	大分	20	15.7
	(参考)福岡	9	4.4

設問 Q12-3最近5年間の間に本学科の実習生を引き受けたことがある。

3. おわりに

今回、これまで学生や幼稚園等との接触によって感覚的に感じていた幼稚園教育実習に関する幼稚園等の意識と実態について、福岡県に次いで佐賀県・大分県について改めて統計的にデータを収集することができた。これらを元に養成校としての取り組みの改善や実習先である幼稚園等との共通理解の向上を図り、より効果的な幼稚園教諭養成の仕組みを作り上げていかなくてはならないという意識が更に強まった。

上記の内容から得られた課題・問題点は以下の通りである。

①事前事後指導の重要性について、福岡県と同様に佐賀県・大分県においても学生と幼稚園等の側に項目間で乖離が見られる。但し、「手あそびのビデオとプリント（保育実技体験）」に関しては福岡県では重要度が低位のグループに属していたが、佐賀県・大分県ではそれと比べて重要度が上がっていた。これは幼稚園教育実習に対する両者の認識にずれがあることが原因と思われるので共通認識を作っていくことが求められる。

②実習の適応状況については、佐賀県・大分県においても幼稚園等の側も学生の健康状態についての憂慮がある

ことや、「実習が楽しい」という評価について肯定的な意見がある一方、このような考え方を警戒する意見も見られた点も福岡県と同様であった。一見、些細なことのようにであるが、厳しい課題に向き合いそれを乗り越えて行くものなのか、明確化された導きの下に主として成功体験の積み重ねによって成長していくものなのか、といった実習の在り方についての本質的な意見の相違を背景に潜ませている可能性があり、幼稚園等との深い意見交換と認識の共有が必要と福岡県同様に佐賀県・大分県でもあるように思われる。

③実習体験内容に関しては学生アンケートに見られる「設定保育」と「一部の指導」へ重点を置いた実施状態と園の重視度が連動している様子が佐賀県・大分県でも同様に窺えた。ただ、佐賀県では「全日保育・半日保育」の重視度が若干高かった。

④「全日保育」や「半日保育」はその重要性に対する認識よりも実施実態が低下していたが、低下の原因は園側の環境要因と学生側の要因があり、特に園側の環境要因が大きく述べられていたのは佐賀県・大分県も福岡県と同様で、単純に状況変化を期待することは難しい。しかし、「全日・半日保育は大切、増やしたい」という意見も多数見られるので、何らかの対応策や代替策を幼稚園等との協議によって探っていく道も残されているように感じられる。

⑤実習訪問については、佐賀県・大分県においても福岡県同様に「学生のサポート」と「園と大学の情報交換の場」として比較的肯定的に受け止められている。

⑥登降園時間については、佐賀県・大分県は登園については園が考える時間の幅が2時間30分で福岡県と同様であった。降園に関してもは福岡県より1時間短く、2時間30分の幅であった。この幅の原因は実習生の位置づけを職員同等と見るかどうかによるようであった。これも福岡県と同様に実習の基本的枠組みの認識の差の影響と考えられる。

⑦実習中の睡眠については、睡眠不足が当たり前という考え方や睡眠時間確保のための実習の効率化や勤務時間・勤務内容の見直しに言及している具体的意見が多数見られる。特筆する点として実習日誌の作成時間を実習時間内に設定しているという記載が非常に多く見られ、福岡県との違いを鮮明にしていた。それにしても全体としては実習の基本的枠組みに関する認識の差が見られる。

⑧佐賀県・大分県でも重要な園務・作業等の内容については、「清掃・環境整備」関係が群を抜いているが、福岡県と比べると出現率は若干低くなっている。保育及び子どもたちの安全確保の為に環境整備が重要であることも異論の無いところであるが、そこには、専門性と密接

に接合した構造化した体験と学びが存在しなくてはならないのではないかと考えられる。しかし、沖原^(註15)が103カ国の学校掃除に関する比較研究で明らかにしているように、アジア諸国、その中でも特に日本が清掃体験を通しての教育を重視していることは所与のところである。その結果、現状は暗黙の共通理解に基づく「清掃を開悟の手段、人間修行の重要な方法とみる掃除観」^(註16)が優位を占めているのではないかと考えられる。より専門性の高い保育者養成のためには、環境整備の重要性を考えると、幼稚園等の側と大学側で清掃に関する概念・内容・指導についての認識のすりあわせをする必要性がある点は福岡県同様と考える。

⑨幼稚園等から受けた指導内容は、佐賀県・大分県でも福岡県と同様に「クラス担任による反省会・指導」が最多で、(背後に園長や主任が控えていることはあるにしても)組織的な対応の回答は比較的少なく、クラス担任の力量に依存していることが窺える。しかし若干ではあるが福岡県と比べて、サポート体勢を意識している様であった。看護師その他の専門職においては実習指導者の資格等が設定されており、保育士養成にも指導者資格の必要性が議論されているところである(厚生労働省は実習実施園における実習指導担当者を選定することを実習実施園に求めると共に実習指導者講習会を開始している)。安定的な実習生指導のために、手探りの実習指導担当者としてクラス担任を疲弊させないために新たな仕組みが、幼稚園教育実習にも必要ではないかと考える。

⑩日々の実習日誌の返却については、福岡県ほどではなかったが、大部分の幼稚園等が早期の返却を重視しているが、これも慣れないクラス担任には過度の負担を強いている様子が窺える。返却システムの標準化や効率的な添削指導システムの開発と普及によってクラス担任の物理的・心理的負担を軽減すると共に指導を効率化することが福岡県同様に必要と思われる。

以上のことから、佐賀県・大分県においても福岡県同様に極めて多様性のある幼稚園等での幼稚園教育実習と統一的指導になりがちな養成校での事前事後指導を含む教育の積極的すり合わせが必要である事が明らかとなった。保育士資格に於いては、保育士養成協議会から保育実習指導のミニマムスタンダードが2007年に発刊され、2018年にVer.2が出された。この中では、他の専門職における実習指導者講習や厚生労働省児童家庭局通知である保育実習実施基準についても触れられ、さらに保育実習Ⅰと保育実習Ⅱの捉え方と実習評価表の項目について言及している。幼稚園教育実習においても、養成校と実習実施園双方の実習指導者同士での協働の必要性が高まっている状況が佐賀県大分県でも確認できた。

そこで、統一は困難であっても、最低限の幼稚園教育

実習のモデル形成とその周知、ひいては、養成校での教育内容、教育実習の内容、採用内定者事前研修の内容、新任者研修の内容、実習指導者の育成を一貫したものと捉えて、養成校と幼稚園等団体組織が協調して作り上げていくことが福岡県のみならず佐賀県・大分県においても今後の課題になると思われる。

引用・注釈

注1. 「幼稚園教育実習に関する幼稚園の意識」松尾智則、古賀和博、増田隆、永渕美香子、山崎篤、櫻井裕介 中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要 第51号2019 pp.17-31

注2. 「幼稚園教育実習に関する意識調査1993-2016」松尾智則、増田隆、久原広幸、久松薫 『中村学園教職教育研究』第2号 中村学園大学・中村学園大学短期大学部教職教育センター 平成30年3月 pp.15-19

なお、表に使用されているデータは、1993-2003年までは「幼稚園教育実習に関する意識調査」松尾智則、pp.47-52、中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要 第37号2005、2013-2015までは「幼稚園教育実習に関する意識調査2013-2015」松尾智則 中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要 第49号2017 pp.57-63、2016年については「幼稚園教育実習に関する意識調査2016」松尾智則 中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要 第50号2018 pp.39-45の再掲である。

注3. 「幼稚園アンケートの結果について」松尾智則 平成30年度教員免許更新講習【選択講習】『幼稚園教諭養成の現状と課題』配布資料 2018.8.23 p.1

注4. 前掲「幼稚園教育実習に関する意識調査1993-2016」 p.16

注5. 同上 p.17

注6. 同上 p.17

注7. 同上 p.18

注8. 前掲「幼稚園アンケートの結果について」 p.2 ※一部作表を修正している。

注9. 前掲「幼稚園教育実習に関する意識調査1993-2016」 p.19

注10. 前掲「幼稚園アンケートの結果について」 p.2

注11. 前掲「幼稚園教育実習に関する意識調査1993-2016」 p.19

注12. 前掲「幼稚園アンケートの結果について」 p.2

注13. 同上 p.2

注14. 同上 p.2

注15. 「各国の学校掃除に関する比較研究」沖原 豊他7名 日本比較教育学会紀要 3号 1977 pp.37-46

注16. 同上 p.43

幼稚園教育実習に関する幼稚園アンケート 佐賀県・大分県調査

このアンケートは本学科が実施している幼稚園教育実習に関する事前・事後指導の内容と学生が体験した幼稚園教育実習の実態に関するアンケート結果(25年間約5000名、11月下旬から12月上旬及び7月実施)を紹介して、それに対する幼稚園側のお考えを御伺いして、今後の幼稚園教育実習の事前・事後指導の内容改善などに資する情報を得ることを目的としています。結果は統計的に処理して個別の幼稚園を特定することは一切ありませんので御忌憚無い御意見をお寄せください。回答は添付の回答票に記入して、内封筒に密封の上、返信用封筒にて2月28日までに御投函ください。

(アンケートに関する問い合わせ窓口 松尾智則 TEL092-851-2531(内線351)

E-mail:tmatsuo@nakamura-u.ac.jp



中村学園大学短期大学部
幼児保育学科

はじめに

表1のアンケート結果は前に記載しているように11月下旬から12月上旬の状態で就職の最終ではございませんが、約四半世紀に亘りほぼ一貫して保育者(幼稚園教諭・保育士)の養成と幼稚園等への人材の供給に努めていることを示しています。また、近年幼稚園就職が若干減少しているように見えますが、福岡県下や県外の幼稚園のこども園化の影響が統計に表れていると思われしますので、依然として幼稚園への人材供給に一定の役割を果たしていると考えています。このことを踏まえてアンケートへの御協力を重ねてお願い申し上げます。

表1 学生の進路(決定・希望)属性(構成比%)

実施年・対象	幼稚園	保育所	施設	こども園	幼稚園又は保育	一般企業	わからない	その他	無回答・無効回	進学
1993(92C)	30.6	35.6	1.9		6.0	18.1	3.2	3.7	0.9	
1994(93C)	30.6	33.5	0.5		17.0	7.3	2.4	4.9	2.9	
1995(94C)	36.2	34.2	1.5		11.7	6.6	3.1	3.1	1.0	
1996(95C)	35.0	27.1	0.5		13.1	9.8	8.9	3.3	2.3	
1997(96C)	39.6	31.9	0.8		10.8	5.4	6.9	2.7	1.9	
1998(97C)	34.4	34.9	0.5		15.3	5.1	6.5	2.3	0.9	
1999(98C)	29.0	25.0	2.0		20.5	5.0	11.0	4.0	3.5	
2000(99C)	41.3	30.1	1.5		11.2	3.4	8.3	2.9	1.5	
2001(00C)	42.9	33.3	2.6		11.6	3.2	3.2	2.6	0.5	
2002(01C)	36.5	43.9	1.1		10.1	2.6	2.1	3.2	0.5	
2003(02C)	34.6	41.3	0.6		11.2	1.7	3.9	6.7	0.0	
2004(03C)	39.8	34.0	2.6		12.6	4.2	4.7	2.1	-	
2005(04C)	42.2	37.2	0.5		6.0	6.0	4.6	3.2	0.5	
2006(05C)	45.9	33.6	1.8		4.5	2.3	5.9	5.0	0.9	
2007(06C)	41.4	37.1	0.5		7.5	1.1	6.5	5.9	-	
2008(07C)	38.0	36.5	7.0		8.5	2.5	4.0	2.5	1.0	
2009(08C)	33.9	41.1	0.5		15.1	3.1	2.1	0.5	0.5	
2010(09C)	36.2	50.5	1.6		5.9	0.5	2.1	3.2	-	
2011(10C)	39.1	39.1	1.0		8.9	2.1	5.7	4.2	-	
2012(11C)	34.7	45.9	3.6		7.1	1.5	2.0	5.1	-	
2013(12C)	38.2	43.7	0.0		7.5	2.0	1.5	7.0	-	
2014(13C)	36.4	49.2	2.1		3.1	2.1	2.6	4.6	-	
2015(14C)	26.2	45.6	4.6	13.3		1.0	6.2	2.1	1.0	
2016(15C)	33.0	49.8	1.9	9.6		4.3	0.5	-	0.5	0.5

※ 設問『あなたの就職先(未定者は希望)はどこですか。当てはまる番号を一つ選んでください。』 ※ 2015から選択肢「こども園」新設、「幼稚園又は保育園」廃止

1.幼稚園教育実習の実習内諾依頼について

本学科では毎年教育実習実施の前年10月に第1回目のオリエンテーションを実施し、同10月に「前学期幼稚園教育実習内諾依頼オリエンテーション」、翌年1月に「後学期幼稚園教育実習内諾依頼オリエンテーション」を行い、原則として前学期幼稚園教育実習の内諾依頼のための訪問は前年10月末から12月に、後学期幼稚園教育実習の内諾依頼のための訪問は1月から3月に行うように指導しています。

本学の学生の意識は表2の通りです。

貴園のお考えはいかがでしょうか。

Q1-1 5月末から6月実施の前学期幼稚園教育実習内諾依頼の時期(前年10月末から12月)は

- 1. もう少し早いほうがいい。
2.今のままでいい
3. もう少し遅いほうがいい
4. わからない

Q1-2 10月実施の後学期幼稚園教育実習内諾依頼の時期(1月から3月)は

- 1. もう少し早いほうがいい。
2.今のままでいい
3. もう少し遅いほうがいい
4. わからない

Q1-3 内諾依頼訪問に関してその他、気になる点がありましたら自由にお書きください。

表2 実習園を決める時期(構成比%)

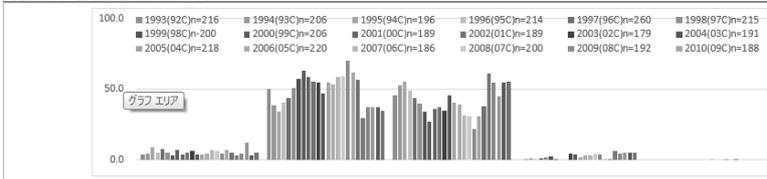


Table with 5 columns: 実施年・対象, もっと早いほうがいい, 今のままでいい, もっと遅いほうがいい, わからない, 無効回答・無回答. Rows list years from 1993 to 2016.

※ 設問『実習する幼稚園を決める時期についてどう思いましたか。当てはまる番号を一つ選んでください。』

2.各種オリエンテーション・事前事後指導等について

本学科では全学を挙げて保育者養成に取り組んでいます。その中でも幼稚園教育実習へ向けた直接の取り組みとしては以下の事を行っています。

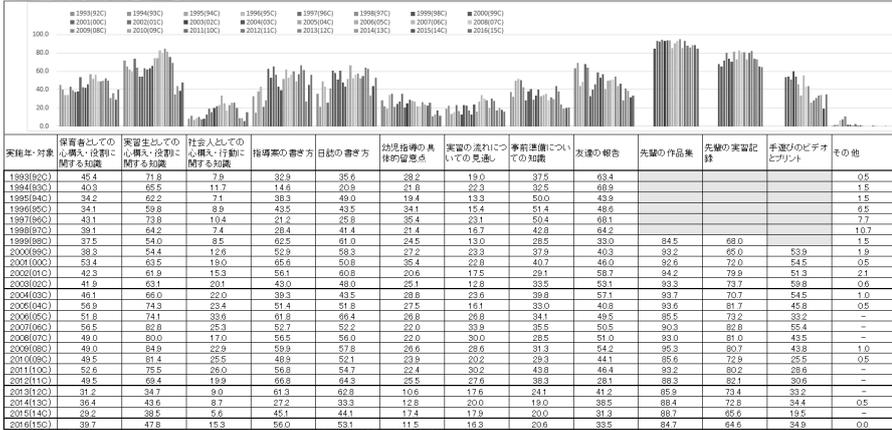
- 1.付属幼稚園参観、付属保育園参観(1学年前学期)
2.付属幼稚園体験保育(半日)(1学年夏休み期間中の9月)
3.幼稚園教育実習希望調査オリエンテーション(1学年10月)
4.前学期幼稚園教育実習内諾書配布オリエンテーション(1学年10月)
5.後学期幼稚園教育実習内諾書配布オリエンテーション(1学年1月)
6.幼稚園教育実習研究(事前事後指導15回)(2学年4月から12月)
7.前学期幼稚園教育実習直前オリエンテーション(2学年4月)
8.後学期幼稚園教育実習直前オリエンテーション(2学年7月)
各回の幼稚園教育実習研究(事前事後指導)の内容は表3の通りです。

また、事前事後指導に関する学生の評価は表4の通りです。

表3 幼稚園教育実習研究の内容

Table with 2 columns: 内容, 学生による活動部分. Lists various activities like orientation, observation, and research.

表4 幼稚園教育実習研究で役に立った点(出現率%)



※ 設問『幼稚園教育実習研究の授業の中で役に立ったのはどんなことですか。当てはまる番号を 複数でも選んでください。』

Q2-1 事前事後指導内容に関してどのような項目が重要と思われるか貴園のお考えは如何でしょうか。番号をお選びください。

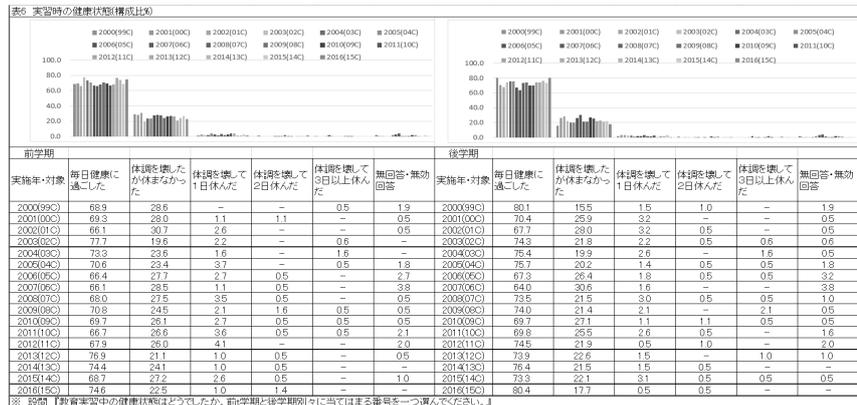
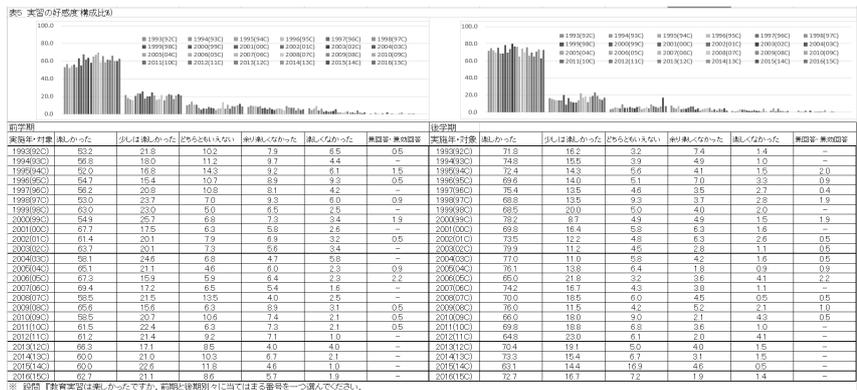
1. 保育者としての心構え・役割に関する知識	1(非常に重要)	2 重要	3 あまり重要ではない	4 重要ではない
2. 実習生としての心構え・役割に関する知識	1(非常に重要)	2 重要	3 あまり重要ではない	4 重要ではない
3. 社会人としての心構え・行動に関する知識	1(非常に重要)	2 重要	3 あまり重要ではない	4 重要ではない
4. 指導案の書き方	1(非常に重要)	2 重要	3 あまり重要ではない	4 重要ではない
5. 日誌の書き方	1(非常に重要)	2 重要	3 あまり重要ではない	4 重要ではない
6. 幼児指導の具体的留意点	1(非常に重要)	2 重要	3 あまり重要ではない	4 重要ではない
7. 実習の流れについての見通し	1(非常に重要)	2 重要	3 あまり重要ではない	4 重要ではない
8. 事前準備についての知識	1(非常に重要)	2 重要	3 あまり重要ではない	4 重要ではない
9. 友達の報告(情報の共有)	1(非常に重要)	2 重要	3 あまり重要ではない	4 重要ではない
10. 先輩の作品集(先輩との情報共有)	1(非常に重要)	2 重要	3 あまり重要ではない	4 重要ではない
※先輩の実習中の各種活動内容のまとめ冊子				
11.先輩の実習記録(モデル理解)	1(非常に重要)	2 重要	3 あまり重要ではない	4 重要ではない
※保育記録・指導案等のまとめ冊子				
12.保育実技発表体験	1(非常に重要)	2 重要	3 あまり重要ではない	4 重要ではない

Q2-2. その他、事前事後指導の内容等について御意見が有りましたら自由にお書きください。

3. 教育実習への適応状況について

幼稚園教育実習への適応状態を好感度と健康状態を指標として表したものが表5と表6です。

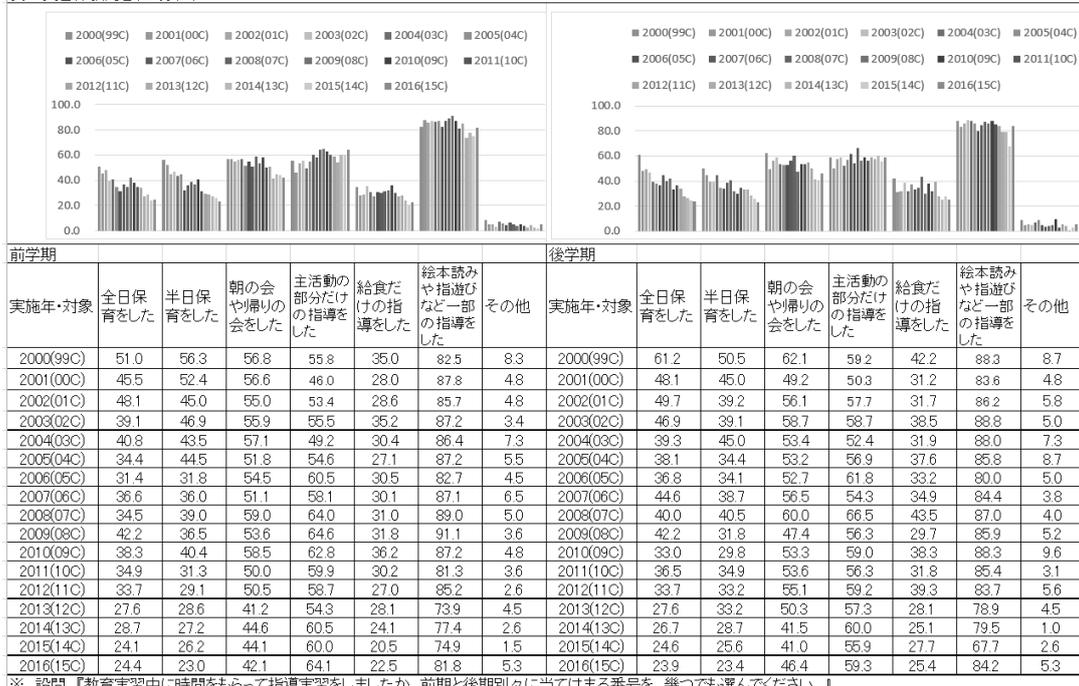
Q3. 教育実習への適応状況に関して御意見が有りましたら自由にお書きください。



4.実習体験内容 1(全体)

実習体験内容の変化を示しているのが表7です。17年間で様変わりしている様子が明らかです。具体的には全日保育や半日保育体験が半減し、朝の会や帰りの会や給食指導が減少し、主活動(設定保育)が微増し、絵本読みや指遊びなどの一部の指導が突出することになっています。

表7 実習体験内容(出現率%)



実習体験内容に関してどのような項目が重要と思われるか貴園のお考えはいかがでしょうか。番号をお選びください。

Q4-1(前学期幼稚園教育実習において)

- | | | | | | |
|----------------------|-------|----------|------|-------------|----------|
| 1. 全日保育 | | 1(非常に重要) | 2 重要 | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |
| 2. 半日保育 | | 1(非常に重要) | 2 重要 | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |
| 3. 朝の会や帰りの会の指導 | | 1(非常に重要) | 2 重要 | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |
| 4. 主活動の部分だけの指導(設定保育) | | 1(非常に重要) | 2 重要 | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |
| 5. 給食の指導 | | 1(非常に重要) | 2 重要 | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |
| 6. 絵本読みや指遊びなど一部の指導 | | 1(非常に重要) | 2 重要 | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |

Q4-2 (後前学期幼稚園教育実習におい

- | | | | | | |
|----------------------|-------|----------|------|-------------|----------|
| 1. 全日保育 | | 1(非常に重要) | 2 重要 | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |
| 2. 半日保育 | | 1(非常に重要) | 2 重要 | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |
| 3. 朝の会や帰りの会の指導 | | 1(非常に重要) | 2 重要 | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |
| 4. 主活動の部分だけの指導(設定保育) | | 1(非常に重要) | 2 重要 | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |
| 5. 給食の指導 | | 1(非常に重要) | 2 重要 | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |
| 6. 絵本読みや指遊びなど一部の指導 | | 1(非常に重要) | 2 重要 | 3 あまり重要ではない | 4 重要ではない |

Q4-3 全日保育や半日保育が減少した理由をどのようにお考えですか。御意見が有りましたら自由にお書きください。

Q4-4 その他実習体験内容について御意見が有りましたら自由にお書きください。

て)

5.実習体験内容 2(勉強になったこと)

学生が教育実習において勉強になったと認識している項目の変化を示しているのが表 8 です。学生の中には体験していないために評価できない項目も含まれてはいると思いますが、「園長・主任の先生などのお話」、「直接の指導の先生のお話し」「姿を見た」など受動的学習については近年明らかな減少傾向にある一方、「…した」などの能動的学習は評価を維持している傾向が見られます。また、2016年に設定保育を分割して項目を設定した結果では「絵本読みや指遊びなど一部の指導をした」「主活動の部分だけをした」が上位を占めていますが、表 7 とクロスしてみると体験した中で評価が高いのは「全日保育」「半日保育」でした。

Q5.このような状況に関して御意見が有りましたら自由にお書きください。

表8 教育実習で勉強になったこと出現率

実施年・対象	園長・主任の先生などのお話	園長・主任の先生などのお話	直接の指導の先生のお話	指導案作成の指導	日誌の書き方の指導	先生の保育する姿を見たこと	こども達と長時間一緒にいたこと	保護者の様子を見たこと	運動会などの行事に参加したこと	理髪機成などの製作を体験したこと	種別などの作業を体験したこと	設定保育をしたこと	特に勉強になったことはない	その他	全日保育をしたこと	半日保育をしたこと	朝の開や開りの会をしたこと	主活動の部分だけの指導をしたこと	絵本などの指導をしたこと	絵本読みや指遊びなどの一部の指導をしたこと
1993(93C)	37.5	79.6	60.5	49.1	85.2	75.9	27.3	66.2	41.7	29.6	90.3	0.5	5.6							
1994(93C)	41.3	80.6	46.6	39.3	90.8	72.3	21.8	62.6	42.7	28.2	92.2	-	2.9							
1995(94C)	36.7	79.1	46.4	46.9	77.6	66.3	25.5	73.0	39.3	25.5	87.2	1.0	1.5							
1996(95C)	33.6	76.2	40.2	42.1	86.0	69.5	23.9	69.5	37.4	33.2	90.7	0.5	1.4							
1997(96C)	44.6	85.6	44.2	50.0	92.3	73.9	34.2	66.5	49.6	33.5	93.1	0.4	4.2							
1998(97C)	43.7	82.3	42.5	39.6	88.8	76.3	28.4	62.3	38.1	32.1	91.6	0.9	1.4							
1999(98C)	43.5	81.5	39.0	36.5	85.0	71.0	30.0	63.0	39.0	30.0	88.0	-	1.5							
2000(99C)	59.7	82.5	83.4	47.0	91.8	80.6	39.3	64.1	47.6	38.3	93.7	-	2.4							
2001(00C)	54.5	91.0	60.3	52.4	96.8	83.6	35.4	76.7	48.7	43.9	95.8	1.6	3.7							
2002(01C)	65.6	91.0	60.8	58.2	96.3	88.4	45.5	67.2	46.6	53.4	95.2	-	2.6							
2003(02C)	62.0	88.8	59.5	55.3	96.1	84.4	48.0	69.3	51.4	54.7	95.0	-	0.6							
2004(03C)	56.5	92.7	62.9	53.4	93.7	78.0	49.2	76.4	40.8	61.8	94.8	-	4.2							
2005(04C)	57.8	87.6	64.7	51.8	94.5	79.8	49.8	73.9	41.7	48.2	92.2	-	2.8							
2006(05C)	48.6	84.5	62.7	43.6	90.5	76.4	37.3	46.8	44.1	42.3	86.4	-	1.4							
2007(06C)	52.7	85.5	46.7	48.2	91.4	79.6	40.3	59.7	48.4	44.6	87.6	-	1.1							
2008(07C)	55.5	89.6	61.5	52.0	93.5	77.5	40.5	70.0	46.5	46.5	92.0	-	2.0							
2009(08C)	50.5	90.6	61.5	56.3	93.8	78.1	41.7	72.4	47.9	41.7	91.1	-	1.0							
2010(09C)	56.9	89.1	59.9	57.4	93.6	67.0	36.2	67.0	48.4	46.0	88.3	-	0.5							
2011(10C)	48.4	89.5	67.5	49.9	93.2	71.4	49.2	70.9	50.0	48.4	89.5	-	0.5							
2012(11C)	50.0	86.7	64.8	56.1	91.3	71.9	48.0	71.4	44.4	30.1	89.3	0.5	1.0							
2013(12C)	47.2	83.4	59.3	50.8	89.4	65.3	36.2	65.3	39.2	43.7	91.0	0.5	0.5							
2014(13C)	42.6	80.0	48.7	57.4	87.7	67.7	27.7	69.2	39.0	45.6	87.2	-	0.5							
2015(14C)	41.0	77.4	49.5	47.7	88.7	69.5	24.1	62.6	40.0	42.1	85.6	-	0.5							
2016(15C)	41.6	81.3	41.6	46.4	89.0	68.4	30.1	54.5	39.7	46.0		-	1.4	35.4	32.5	49.8	63.6	20.1	72.2	

※ 設問『教育実習はどんなことが勉強になりましたか。当てはまる番号を一つ選んでください。』

6.実習訪問について

実習中の教員による実習園訪問には各幼稚園にご配慮いただきありがとうございます。表 9 に示しますように学生の実習訪問に対する期待も高まっています。今後も実習訪問の内容を充実していきたいと考えています。

Q6.実習訪問に関して訪問する大学教員に期待する内容や改善を望む項目など御意見が有りましたら自由にお書きください。

表9 実習訪問の必要性(構成比%)

実施年・対象	ある方がいい	分からない	無くてもかまわない	無回答・無効回答
1999(98C)	53.0	33.5	13.5	-
2000(99C)	57.3	27.2	13.6	1.9
2001(00C)	47.6	34.4	17.5	0.5
2002(01C)	50.8	34.9	13.8	0.5
2003(02C)	63.7	23.5	12.3	0.6
2004(03C)	56.0	30.4	12.0	0.5
2005(04C)	59.6	24.8	9.2	0.5
2006(05C)	74.1	13.2	6.4	6.4
2007(06C)	66.1	18.8	9.1	5.9
2008(07C)	67.0	25.0	8.0	-
2009(08C)	76.0	19.8	4.2	-
2010(09C)	66.5	21.3	11.2	1.1
2011(10C)	64.1	19.8	8.9	7.3
2012(11C)	69.4	13.8	9.7	6.6
2013(12C)	80.9	14.6	4.5	-
2014(13C)	83.1	10.3	6.2	-
2015(14C)	79.0	15.4	4.6	1.0
2016(15C)	80.4	14.8	4.3	-

※ 設問『実習訪問の制度をどう思いますか。当てはまる番号を一つ選んでください。』

ここからは平成 29 年度前学期の幼稚園教育実習に関するアンケート結果からご意見をお聞きます。

7.実習中の登降園時間について

学生の登園時間が表 10、降園時間が表 11 です。

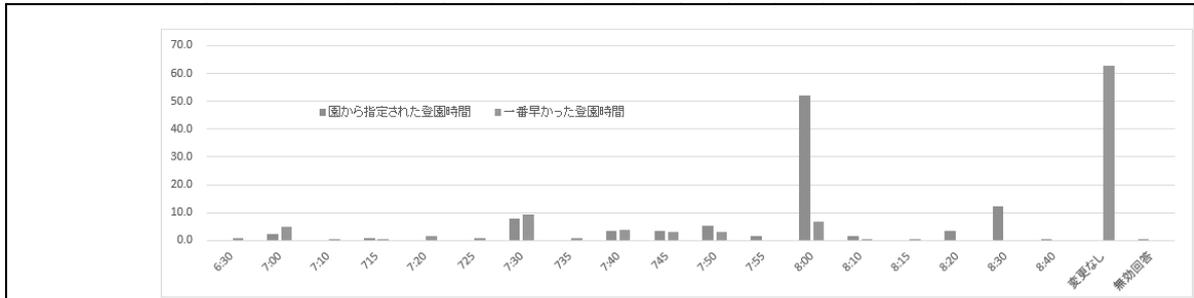


表10.登降園時間(構成比%)

時刻	6:30	7:00	7:10	7:15	7:20	7:25	7:30	7:35	7:40	7:45	7:50	7:55	8:00	8:10	8:15	8:20	8:30	8:40	変更なし	無効回答
園から指定された登園時間	-	2.5	-	1.0	-	-	7.9	-	3.4	3.4	5.4	1.5	52.2	1.5	-	3.4	12.3	0.5	-	0.5
一番早かった登園時間	1.0	4.8	0.5	0.5	1.5	1.0	9.4	1.0	3.9	3.0	3.0	-	6.9	0.5	0.5	-	-	-	62.6	-

※ 設問『実習園から指示された基本的登園時間と降園時間と実際の時間を具体的に記入してください。』

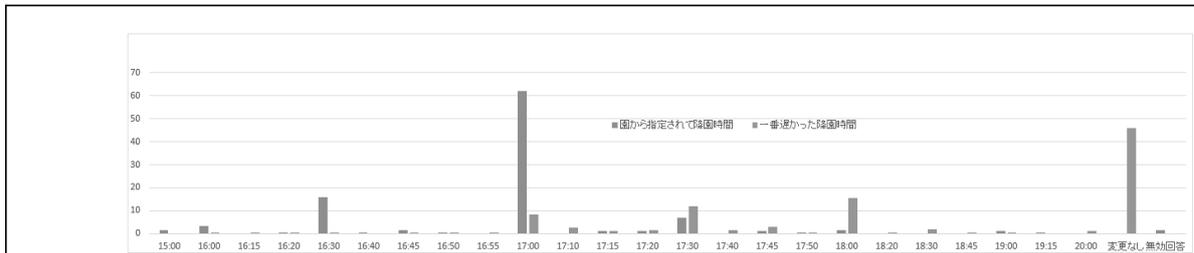


表11.降園時間(構成比%)

時刻	15:00	16:00	16:15	16:20	16:30	16:40	16:45	16:50	16:55	17:00	17:10	17:15	17:20	17:30	17:40	17:45	17:50	18:00	18:20	18:30	18:45	19:00	19:15	20:00	変更なし	無効回答
園から指定された降園時間	1.5	3.4	-	0.5	15.8	0.5	1.5	0.5	-	62.1	-	1.0	1.0	6.9	-	1.0	0.5	1.5	-	-	-	1.0	0.5	-	-	1.5
一番遅かった降園時間	-	0.5	0.5	0.5	0.5	-	0.5	0.5	0.5	8.4	2.5	1.0	1.5	11.8	1.5	3.0	0.5	15.3	0.5	2.0	0.5	0.5	-	1.0	45.8	-

Q7-1 実習中の学生の登降園時間は園の経営方針や反省会の実施状況と学生の積極的行動などによって前後することがありますが、基本的登園時間と降園時間は何時頃が望ましいとお考えでしょうか。

Q7-2 その他登降園について御意見が有りましたら自由にお書きください。

8. 実習中の睡眠について

学生の睡眠時間が表 12 で、睡眠不足の認識が表 13 です。実習中是不慣れな環境での活動や翌日の準備で学生には睡眠時間が不足の傾向が見られます。

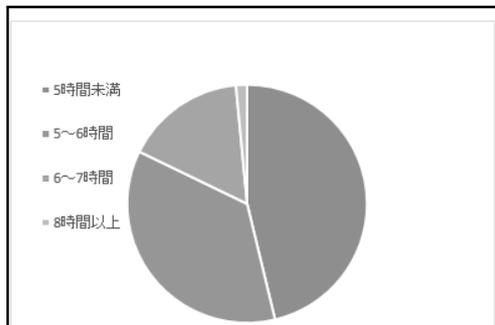


表12.睡眠時間(構成比%)

睡眠時間	5時間未満	5~6時間	6~7時間	8時間以上
睡眠時間	46.3	36.0	16.3	1.5

※ 設問『実習中の平均の睡眠時間はどれくらいでしたか。該当する番号を1つ選んでください。』

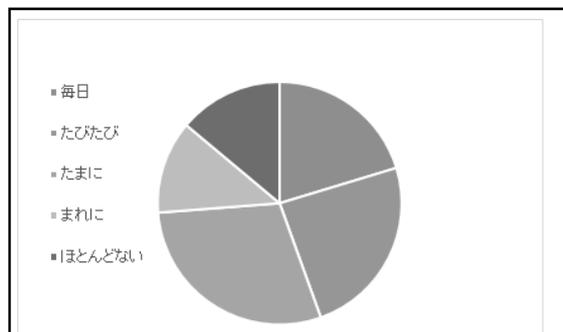


表13.睡眠不足(構成比%)

睡眠不足	毎日	たびたび	たまに	まれに	ほとんどない
睡眠不足	20.2	24.1	29.1	12.3	13.8

※ 設問『実習中に常に睡眠不足を感じましたか。該当する番号を1つ選んでください。』

Q8 睡眠時間不足に関連して御意見が有りましたら自由にお書きください。

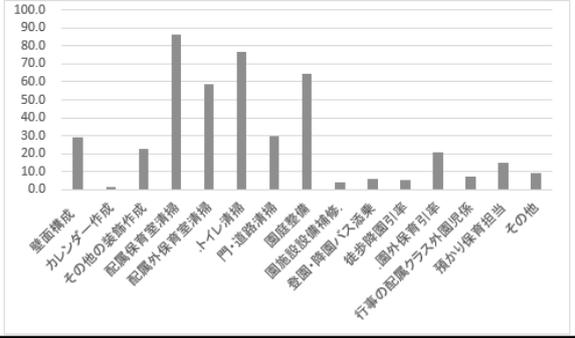
9.園務・作業等の内容について

学生が体験した園務・作業の状況が表 14 です。

Q9-1 園の運営方針によって実習生が体験できる園務や作業等の内容は多様なものになると思われませんが、ぜひ必要とお考えになる園務・作業体験をお書きください。

Q9-2 その他、御意見が有りましたら自由にお書きください。

内容	出現率%
壁面構成	29.1
カレンダー作成	1.5
その他の装飾作成	22.7
配属保育室清掃	86.2
配属外保育室清掃	58.6
トイレ清掃	76.4
門・道路清掃	30.0
園庭整備	64.5
園施設設備補修	4.4
登園・降園バス添乗	6.4
徒歩降園引率	5.4
園外保育引率	20.7
行事の配属クラス外園児係	7.4
預かり保育担当	15.3
その他	9.4



※設問『実習中に行った園務・作業等について該当する番号を幾つでも選んでください。』

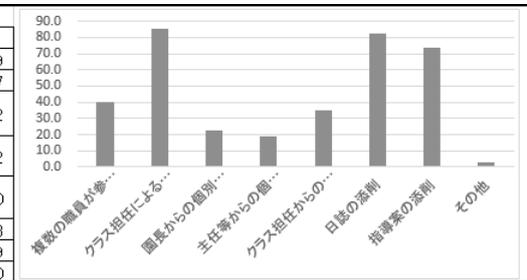
10.園から受けた指導内容

学生が受けた指導内容の状況が表 15 です。

Q10-1 幼稚園から受ける指導内容は各幼稚園の事情によって多様であると思われませんが、ぜひ必要とお考えになる指導内容をお書きください。

Q10-2 その他、御意見が有りましたら自由にお書きください。

内容	出現率%
複数の職員が参加した反省会	39.9
クラス担任による反省会	85.7
園長からの個別直接の口頭指導(反省会を除く)	22.2
主任等からの個別の口頭指導(反省会を除く)	19.2
クラス担任からの個別の直接の口頭指導(反省会を除く)	35.0
日誌の添削	82.3
指導案の添削	73.9
その他	3.0



※設問『幼稚園から受けた指導について該当する番号を幾つでも選んでください。』

11.実習日誌の返却について

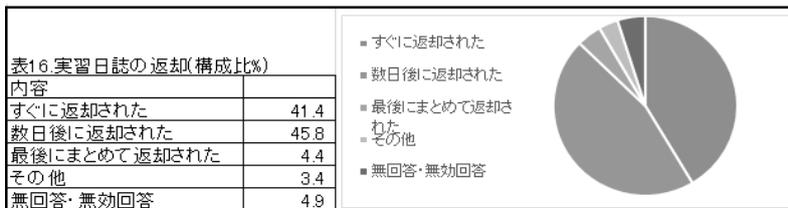
日誌返却に関する状況が表 16 です。

Q11-1 実習日誌の返却は幼稚園の業務の影響もあると思われませんが、どのような返却の形がいいとお考えか、自由にお書きください。

Q11-2 日誌添削後指導の指導についてどのようにお考えでしょうか。一つお選びください。

1. 添削に基づく削除(消去)・修正を求める。
2. 特に指導しない

Q11-3 その他、実習日誌について御意見が有りましたら自由にお書きください。



※設問『園に提出した日誌・指導案の返却時期は概ねどうでしたか。該当する番号を1つ選んでください。』

12.フェースシート

最後に統計処理のために貴幼稚園についてお聞きします。該当する番号をそれぞれ一つお選びください。

Q12-1 貴幼稚園(認定こども園)の所在地

1. 佐賀県内
2. 大分県内

Q12-2 設置者区分

1. 国公立
2. 学校法人立
3. 社会福祉法人立
4. その他

Q12-3 施設種別

1. 幼稚園
2. 幼稚園型認定こども園
3. 幼保連携型認定こども園

Q12-4 最近5年間の間に本学科の実習生を引き受けたことがありますか。

1. 引き受けたことがある
2. 引き受けたことはない
3. 不明

Q12-5 (Q12-4で1を選択した場合のみ御記入ください。)

本学科の教育実習生に関して御意見・ご感想がありましたら、自由にお書きください。

御協力ありがとうございました。(回答は回答票にご記入ください。)